第１６号　　２月１８日（金）【
「井戸」一斉学習⑨

ピシャリと、つるべが水に触れた。
底に着いたのだ。
丑は、ハッとして。
「よおし！」
と大声で怒鳴った。声は、うつろの壁にひびいて、ゆかいそうに上へ消えて行った。

Ｔ　「ハツとして」て書いてるね。「ハツとして」て
　どういうことか分かる？
力　意味わからん
Ｔ　みんな、ハツとするってどんな時？
力　びっくりした時
和幸　なんか考えごとしてて、いきなり当てられた時とか。
力　なにもしらんと入ってきてわっと驚かされた時
Ｔそう、心がべつのことにいっていて、急に現実にもどるとき。
たとえば、きれいな夕焼けにみとれてて、急にうしろからクラクションが鳴って、ああ、今道を歩いてたんだなあ、て。
我に返るともいいますね。
テレビに夢中になってたのが、急に呼ばれて、われに返る。そんなとき、「ハッとする」ていいますね。
じゃ、ここで丑がハッとする、ということは、丑は今まで何かに夢中になっていた、ということでしょ。何かに夢中になっていたのが、ピシャリという音で我に返ったんですね。
じゃ、ハッとするまでの丑は、何に心を奪われてたのか、それを考えて下さい。
　読んで。
Ｃ　各自読む。
和美　朗読「丑は、二間おり、・……消えて行った。」
大輔　１個だけ見つかった
美豊子　「あたりはへんにうすらつめたくてシーンとしていた」だから、前入った感じとちがうでみとれていた。
Ｔ　井戸に入った瞬間からぼーっとしている。全くちがう世界だからね。
真ひと　なんだか、自分が下へおりていくのでなく、高いところへあがっていくような気がした」てかいたるでな、自分が高いところへ上がっていくような気がしたでな、ヒンヤリという音がしたとき、ハッとした。
Ｔ　はい、他の人
ＣＳ　……
真ひと　「やつらくやしけら、きてみろ。いばったってここまでこられめが！やあい。」てかいたるやん。ほんで、上にあがってるような気持ちと、みんなよりえらいんだという気持ちでな、両方思っててな、それが、ピシャリでハッとしたん。
大輔　真ひとといっししよ。やつらくやしけら、て、どなってるのに、急に水についたで、びっくりしたん。
Ｔこのこと、「やつら……」という気持ちでいっぱいだった、そしたら、着いた。
真人「やつらくやしけら、」て文句ゆうてるとこにな、ピシャリて、途中まで文句ゆうてたのに、ハッとした。
Ｔこういう気持ちでいっぱいだったのが、ピシャリで我に返ったというのね。
力　あのな、丑はな、みんなはここまではいれへんやろて、まひちゃんがいうてたみたいに、上へあがってるような気になってたやろ。ほんまは下へおり　ていってるのに上へあがっていってる気持ちやったんやろ。丑は、井戸の中にはいってる気がなくなってるのに、

それが、いきなり、ピシャリと水についたでびっくりしたん。
裕幸　あんな、ここではな、丑はみんなより上のように思ってるやろ。自分がそんなふうに思ってて、ピシャリと水に着いたときでな、なんか、そうか、てわれに返った。自分の仕事を思い出したみたいに。
T　着いたときに、ああ、自分はとりに来ていたんだ
　他の人、どう　志穂
志穂……
T　志穂は、今のみんなの聞いててどう？よくわからなかったの？
志穂……
T　はつとするまで、丑は夢の世界にいたんだ。丑はどんな夢をみていたんだろうか。
貞幸　つくまでな、上見たときな、三つ四つ小さい顔が見えてた。それを見てる時に水についた。
Tそう、ずつと見ていたね。どんな気持ちで見ていたの？
貞幸……
T　保が前にだしてたね。
保……
T　まあいいや。さっき手をあげていた人。同じでもいい。言って。美希
美希　「やつら……」て、丑は心の中でどなっていてピシャリと音がして、ハッとした。
T　つまり、「やつらく・やしけら」ていう叫びみたいなもので、心がいっぱいで、
智士　おりていくのがわからんかった。
真人　みんなにたいする文句でいっぱい。
T　みんなに対する文句やら、自分がえらくなったようなきぶんやらで心がいっぱいになってわれを忘れていた、ということですね。
　そういう心はどこから生まれてきたか、といったら、それは、一つは貞幸が出してるでしょ。何もなしでかわってきたんじやないね。
弘子　前発表したように、自分がみんなよりえらいような気がしてきて、ほんで、「やつらくやしけら」ていった。
T　そうだね。その自分がえらくみえてきた、というのはのはどこからでしたか。
　最初からそう思えなかったんでしょ。ある瞬間から自分の方がえらくみえてきたんだ。
哲郎　「小さな顔」て書いたるでな、なんとなく自分より小さい気がしてるでな、自分のほうが上やて。
T　そのことは保が前の時間にいってたね。
　明子わかる？
明子　三つ四つ小さい顔がのぞいていたでな、小さい顔やで、自分のほうがえらく見えてきた。
真人　みんなの心も小さい。
T　そうそう、みんなの心もちっち今いと感じられてきたんだね。
　それから、シーン。これは、丑にとって気持ちの悪いシーンだったんですか。
保　いつもみんなからわあわあいわれてたけど、ここは、シーンとして一人だけやでな、みんなの中にいてるより気持ちがいい。
T　そう、ここにもタネがあるんね。シーンとしてい　たからおびえたんじゃなくて、むしろ気が楽になってる。自分一人になってかえって力が出てきた。
　そして、みんなのちっぽけさも見えてきた、それから、上をみると、空もちゃんと見えている。
　そんなことがあって、これ（やつら、高いところ）が心にいっぱいになってきた。そんなとき、ピシャリと水についた。そういうことですね。
さあ、その時丑はどうしたか。

「よおし！」
と大声でどなった。

ここの丑の姿を思い浮かべて下さい。どんな感じがしますか。どんな丑の顔がうかぶ？
力「よおし」ていうのは、上にきこえんかったんかなあ。
T　「よおし」ていうのは、上に対して「ついたぞ」
ていう合図ですね。それを、大声でどなった。そこ　に丑の姿が何か感じられませんか。
真ひと「よおし、がんばるぞ」という気持ちで、言ったと思う。
T　ほら、いいこという。誰か、真ひとのもらえませんか。真ひとは、ただ、上への合図だけでなく、丑の決意みたいなものがある。
どういうことなんだろう。
CS　……
T　どう、みんなは、ここの丑の姿は、今までの丑の姿とおんなじにみえますか。違って見えますか。
CS全く違う。
強くなってる
T全く違って見える。
C　別人
T　晃典どう思う？
晃典　ちがつて見える。上にいたときはな、みんなにいじめられても、みんなに何にもいえんかったけどな、ここやったら、大声でどなってるでな、つようなってる。
T　つよくなってる。志穂は？
志穂……
T　晃典が強くなってる、て言ったでしよ。それをどうきいたのか。そう思うのか、それともちがうのか。
和美　丑は上にいるときは何も言いかえせんかったけどな、井戸に入ってからな、「やつらくやけらきてみろ」とかいうてるやん。ほんでもう、
T　和美ががんばっていってくれたんだから、それ、もらわないと
貞幸　井戸にはいってる時はな、みんなからいじめられてたけどな、井戸の中に入ってからはな、みんなよりつようなった感じでな、
大輔　さだちやんといつしよでな、まひちゃんみたい、がんばるぞ、とちごてな、「丑松なんだった。」て聞いたとき、「死んだ猫っこでやんす」て意地悪く言うたやん。ほんで、こんどはなは、みんなを馬鹿にしてるようにゆうてる。
真人　ぼくはまひちゃんみたいなんやけどな、まだ文句のとちゅうみたいなんやったけどな、まだまだ文句があるんやろ。ほれで、文句をゆう気持ちで「よおし。」
和幸　もし、今までの丑と全然かわらへんかったらなそんな大声でいわんと、
T　聞こえない。はっきり言わないと。
和幸　もし、いじめられたままの丑だったら、そんな大声ださんと、もつとちっちやい声になる。
智子　井戸の上にいるときは、みんなが自分よりえらいというか、大きい存在に見えてたけど、さっきもいうたけど、３つ４つ小さい顔見たら、自分のほうがえらく見えてきて、自信がついてきて、大きい声でどなったと思う。
智士　すごくやる気が出てきたの
力　ぼくはな、よおしというたときはな、まひちゃんがいうたのとちごてな、だいちゃんみたいに、もし、おちてるもんがほんまに気持ちの悪いもんやったら、うそつかへんかったと思う。
T　何いうてるの？いまは、「よおし」というたときの丑はどうなんだろうかということ。いまみんなは、上にいた時の丑とちがう、て言ってるんだね。
じゃ、この「よおし」て叫んでいる中にどんな丑の心があるんだろうか、ていうこと。
カいじめたろう。
Tそう。そういう人もある。
他の人はどう。

その前後を読んでごらん。
CS　読む
T　「声はうつろの壁にひびいて、ゆかいそうに上へ消えていった」
　ここにも丑の心があるでしょよ。
……
「底についたのだ」「ついた」じゃなくて、「ついたのだ」　ここにも心があるでしょよ。
……
「よおし」　なぜ、ここの丑の声はそんなに力づよいのか。
　暢子、自分の考え、出してごらん。
暢子　あのな、上にいるときはいじめられててもな、何もいわん子やったけどな、井戸の中に入ってだんだんつようなってな、……
　なんか、自分が……　上のように思ってきた。
T　それがよおしに出たる、ということか。
暢子……
　T　これは、井戸の底から、みんなについたぞという合図にはちがいない。だけど、それだけじゃない。ここには、丑の気持ちがある。しかもその声は、ゆかいそうにひびいて聞こえる。やっぱり、ここには、うんと丑の気持ちがあるはずなんだ。
　それをみんなでさぐらないと。
美豊子　丑は今までさんざんみんなから馬鹿にされてきたけどな、もうみんなも勇気がないことがわかったでな、これからは、みんなを馬鹿にして、ゆかいに過ごしていこう。
大輔　おんなじ。今までさんざんみんなにいじめられてきたさかいな、もう、みんなの根性のないのがわかったさかいな、こんどはな、自分からみんなにいじめたろうという気持ちがある。
T　そういういやらしい丑がうかぶ？
力　ぼくはそんなん、浮かばんな。
和幸　よおしでな、これからがんばるぞ、というてるみたいで、「死んだ猫っ子でやんす」とかはな、冗談半分でいうてるみたい。
善崇　声はうつろの壁にひびいて消えていったて書いたるやろ。ほんでな、みんなはな、もう勇気がないとかな、一つ丑にとりえができてなく、うれしくてな、大声でさけんだと思う。
力　とりえというのは、どういうとりえ？
善崇　みんなができんことをな、初めてやった。
真人　みんなができひんことを一人でやった。
T　「着いたのだ」ついにやったのですね。みんながおそろしがってできなかったことが。
　そういううれしさが「よおし」にある。
　保は、何が言いたかったの
保　今まで丑の性格、暗かったのにな、井戸の中に入って自分がみんなより大きい存在に思えてきてな、井戸に入る前とちがってな、性格がものすごう明るいちゅうか、性格が全然ちがってきてな、それが、よおしにでてる。
チャイム
一へ
T　うん、ここで、ふっきれてるね。暗い丑からものすごく明るい丑に。
浩生　「よおし」のところは「がんばるぞ」て気合いを入れてる。
力、みんなからいじめられっぱなしで、さびしいみたいなんやったけど、井戸に入ってよっちが言ったみたいに、ひとつとりえができて、うれしいなって、がんばるぞと思ってどなったん。
一